資料６－１

食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する情報等について」（平成 25 年 2 月実施）の結果（要約）

食品安全委員会では、食品安全モニターの方を対象に、食品の安全性に関する情報等について、平成 25 年 2 月 19 日から 3 月 4 日までを調査実施期間として、食品安全モニター470 名を対象に調査を実施（有効回答数 284 名（60.4%））した。

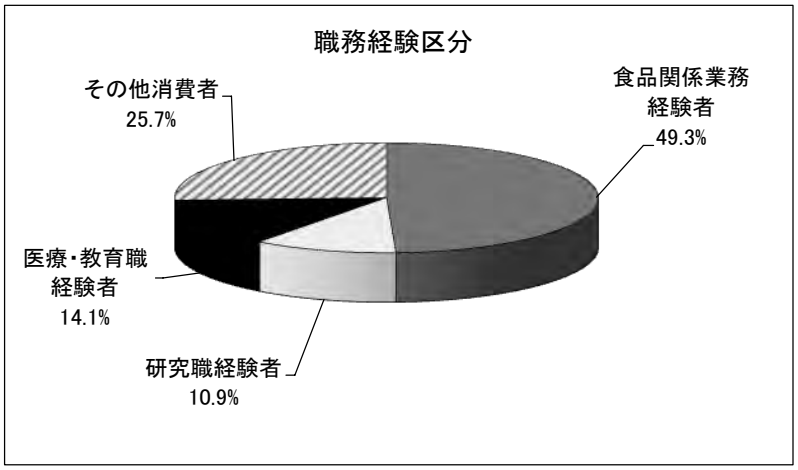
【食品安全モニターの回答者数の内訳】

①男女別、年齢別

	男性	女性	人数計	割合
20～29 歳	0 人	6 人	6 人	2.1%
30～39 歳	19 人	34 人	53 人	18.7%
40～49 歳	25 人	43 人	68 人	23.9%
50～59 歳	36 人	27 人	63 人	22.2%
60～69 歳	61 人	16 人	77 人	27.1%
70 歳以上	14 人	3 人	17 人	6.0%
全体	155 人	129 人	284 人	－
割合	54.6%	45.4%	－	100.0%

②職務経験区分別

食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業（飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む）に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	140 人 （49.3%）
研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関（民間の試験研究機関を含む）、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	31 人 （10.9%）
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業（医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等）に就いた経験を5年以上有している方	40 人 （14.1%）
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	73 人 （25.7%）

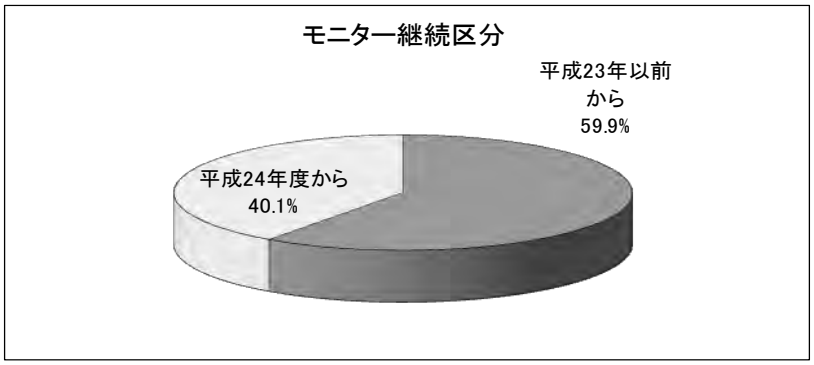


・男女別、年代区分別内訳

	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39 歳	40～59 歳	60 歳以上	
食品関係業務経験者	100 人	40 人	27 人	57 人	56 人	140 人
	71.4%	28.6%	19.2%	40.7%	40%	100.0%
研究職経験者	26 人	5 人	5 人	15 人	11 人	31 人
	83.9%	16.1%	16.1%	48.4%	35.5%	100.0%
医療・教育職経験者	10 人	30 人	7 人	19 人	14 人	40 人
	25.0%	75.0%	17.5%	47.5%	35%	100.0%
その他消費者一般	19 人	54 人	20 人	40 人	13 人	73 人
	26.0%	74.0%	27.4%	54.8%	17.8%	100.0%

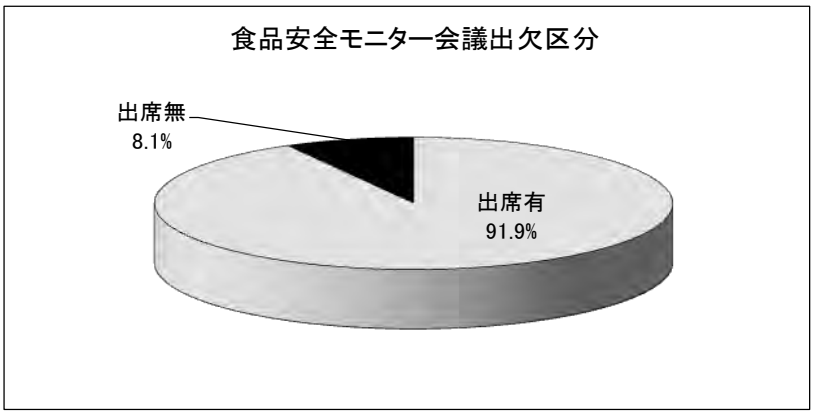
③モニターは継続か、２４年度新規か

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方
  （以下、「経験モニター」という） 170 人（40.1%）
- 平成 24 年度から、食品安全モニターに依頼された方
  （以下、「新規モニター」という） 114 人（59.9%）



④食品安全モニター会議への出欠

- これまでに食品安全モニター会議に出席したことがある方 261 人（91.9%）
- これまでに食品安全モニター会議に出席したことがない方 23 人（ 8.1%）



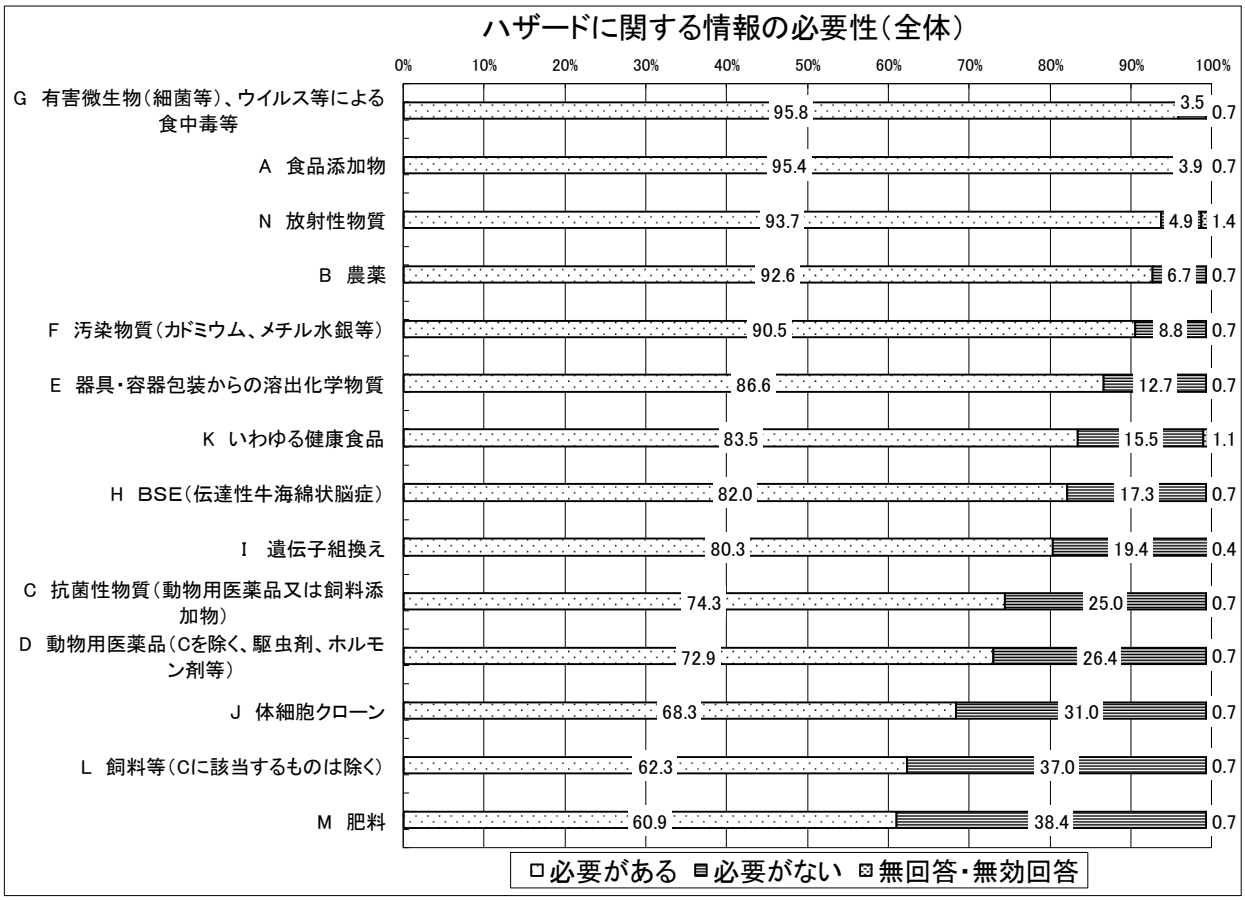
【調査結果（要約）】

1）食品の安全性に関する情報について

①ハザードに関する情報の必要性（問 1）

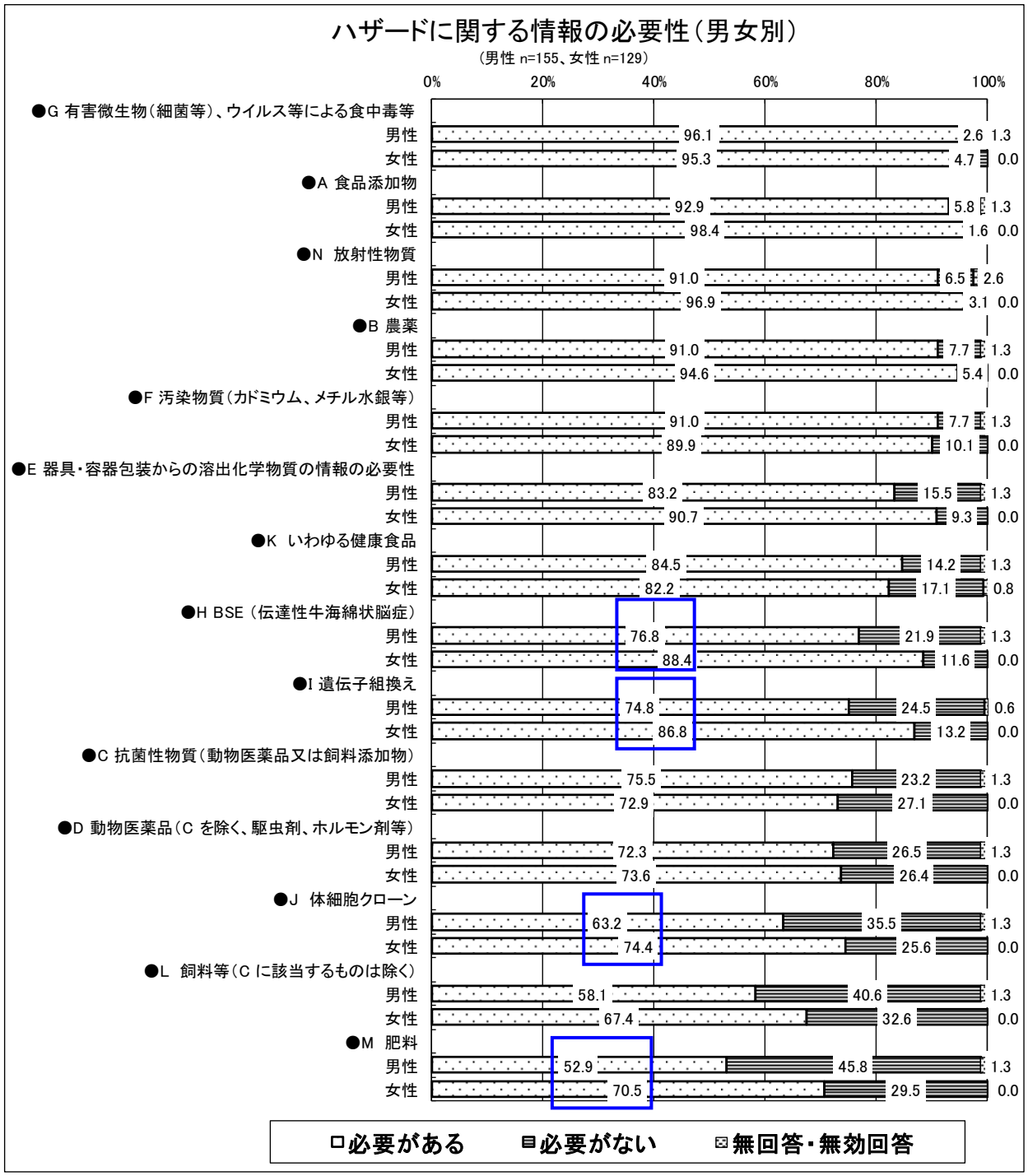
◆ ハザードに関する情報について「必要がある」との回答の割合が高いものの上位 5 事項（ハザード）は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」（95.8%）、「食品添加物」（95.4%）、「放射性物質」（93.7%）、「農薬」（92.6%）、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」（90.5%）である。

◆ 一方、「必要がない」との回答の割合が高いものの上位 5 事項（ハザード）は、「肥料」（38.4%）、「飼料等（抗菌性物質に該当するものは除く）」（37.0%）、「体細胞クローン」（31.0%）、「動物用医薬品（抗菌性物質を除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」（26.4%）、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」（25.0%）である。



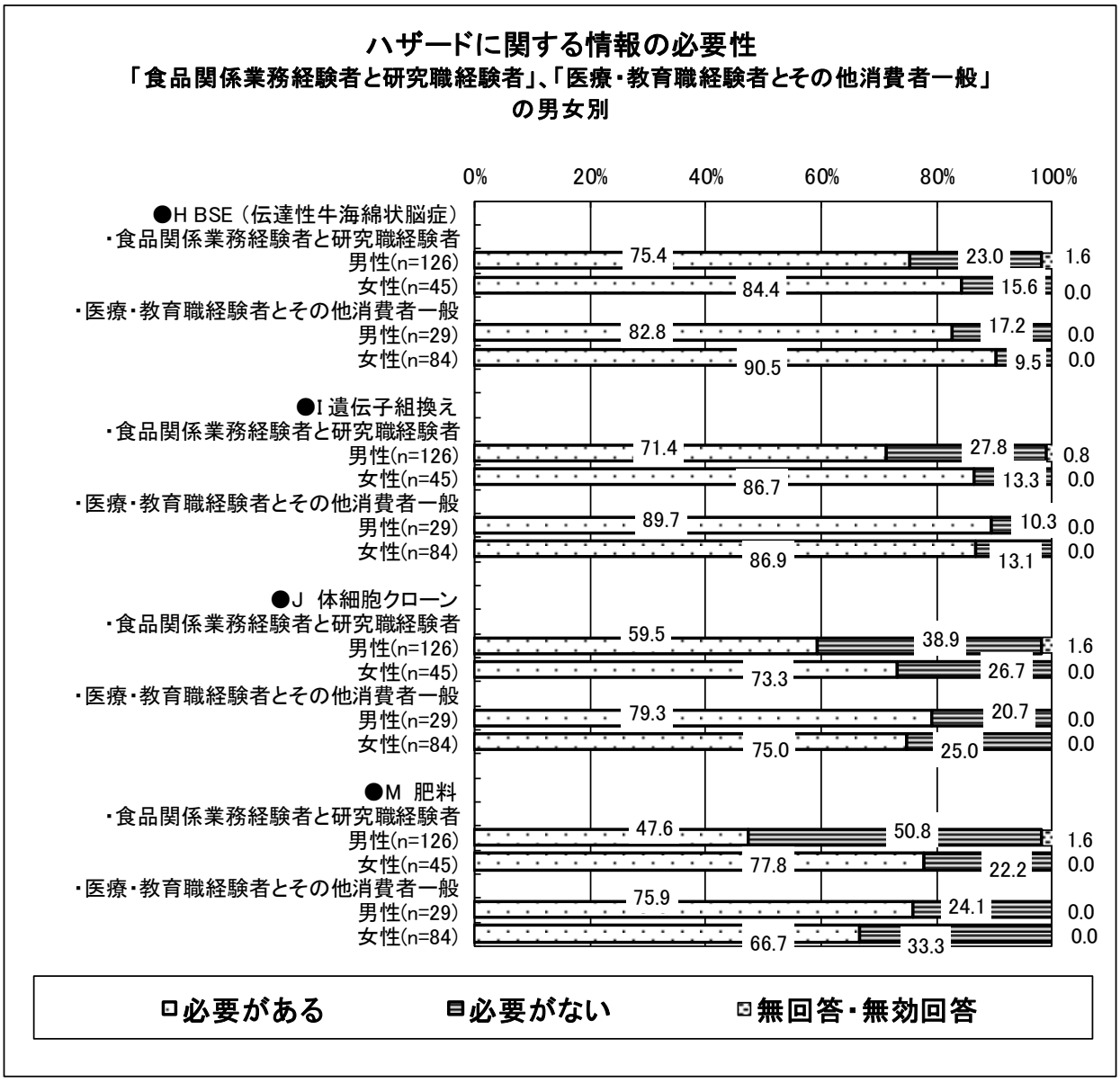
＜ハザードに関する情報の必要性についての男女別回答割合＞

◆ 女性の方が男性より「情報が必要である」との回答の割合が高く、その差が 10%以上であったハザードは「肥料」（女性が 17.6%多い。以下同じ。）、「遺伝子組換え」（12.0%）、「ＢＳＥ（伝達性牛海綿状脳症）」（11.6%）、「体細胞クローン」（11.2%）であった。



◆ モニターの職務区分（２ページ参照）は、男性は「食品関係業務経験者」及び「研究職経験者」が多く、女性は「医療・教育職経験者」及び「その他一般消費者」が多い。そこで、前ページの内容について、職務経験区分による影響を検討した。

女性の方が男性より「情報が必要である」との回答の割合が高い４つのハザードを、更に「食品関係業務経験者」及び「研究職経験者」の合計と、「医療・教育経験者」及び「その他一般消費者」の合計を比較したところ、ＢＳＥについてはいずれも女性の方が男性より「情報が必要である」との回答の割合が高いが、その他の３つのハザードについては、「医療・教育職経験者」及び「その他一般消費者」の合計の、男女による差は小さく（肥料は男性の方が多い）、職務部分も結果に影響していると考えられた。

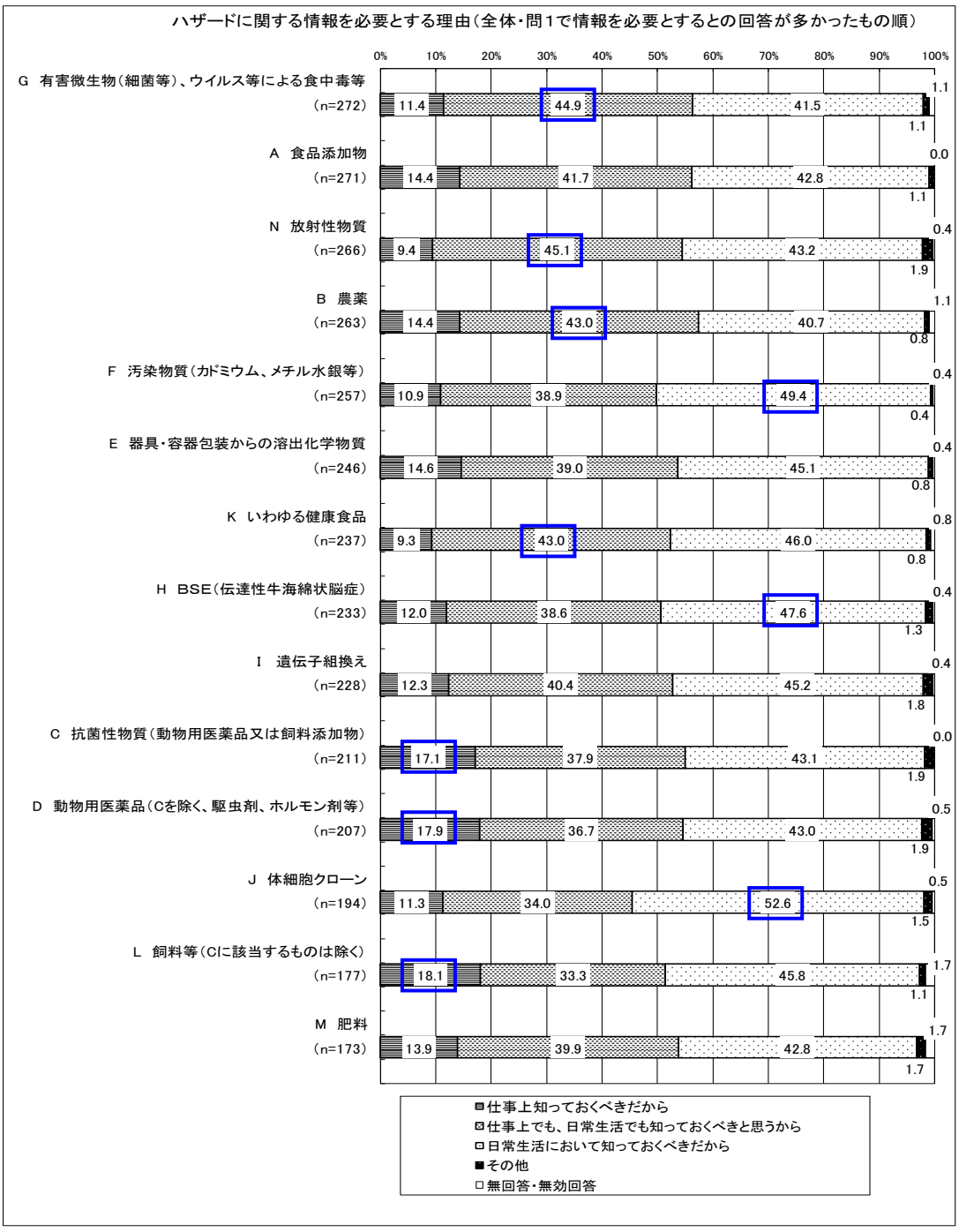


②ハザードに関する情報を必要とする理由（問 2）

◆ 「仕事上知っておくべきだから」との回答の割合が高いものの上位 3 事項（ハザード）は、「飼料等（C に該当するものは除く）」（18.1%）、「動物用医薬品（Ｃを除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」（17.9%）、「抗菌性物質（動物用医薬品又は飼料添加物）」（17.1%）である。

◆ 「日常生活において知っておくべきだから」との回答の割合が高いものの上位 3 事項（ハザード）は、「体細胞クローン」（52.6%）、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」（49.4%）、「ＢＳＥ（伝達性牛海綿状脳症）（47.6%）」である。

◆ 「仕事上でも、日常生活でも知っておくべきと思うから」との回答の割合が高いものの上位 3 事項（ハザード）は、「放射性物質」（45.1%）、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」（44.9%）、「農薬」（43.0%）、「いわゆる健康食品」（43.0%）である。

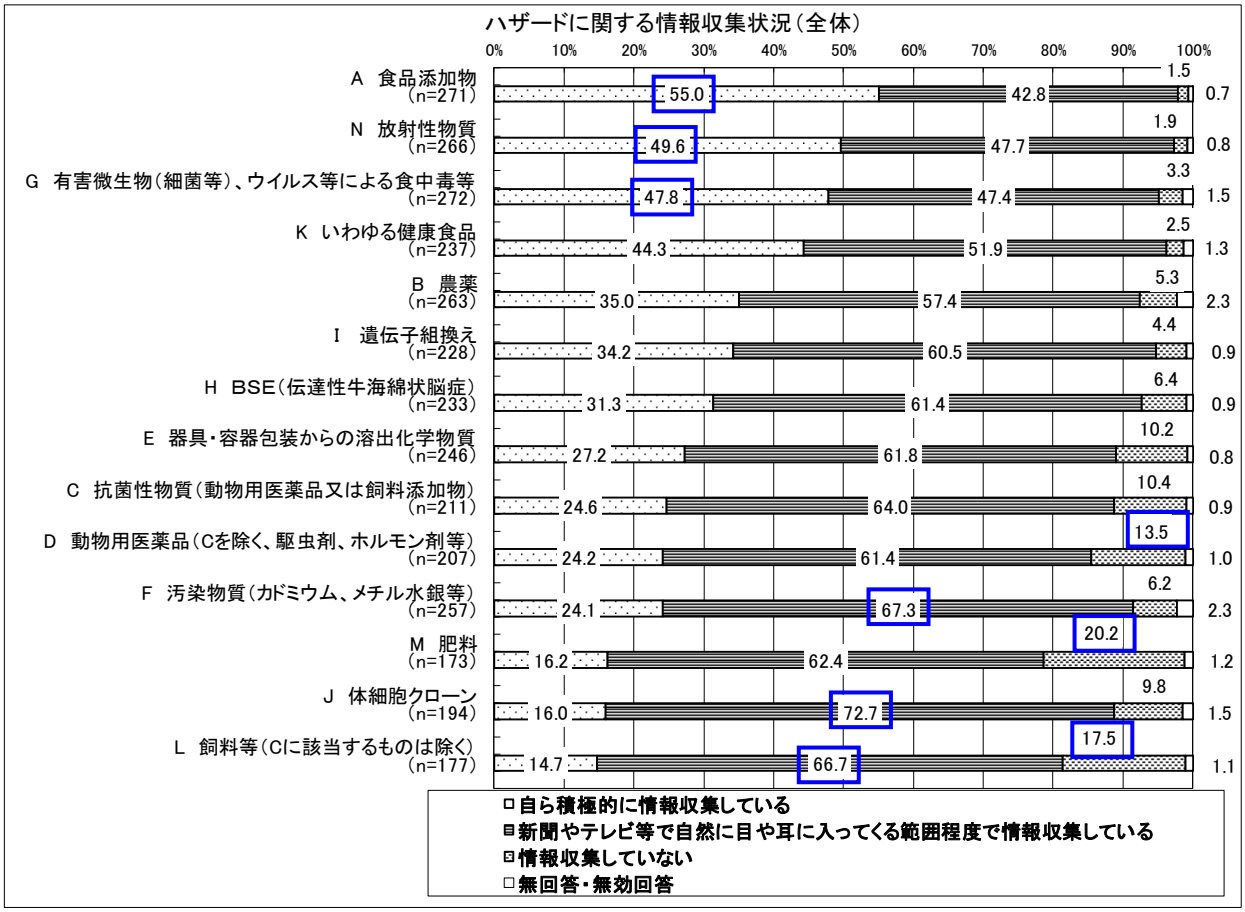


③ハザードに関する情報収集状況（問 3）

◆ 「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合が高いものの上位 3 事項（ハザード）は、「食品添加物」（55.0%）、「放射性物質」（49.6%）、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」（47.8%）である。

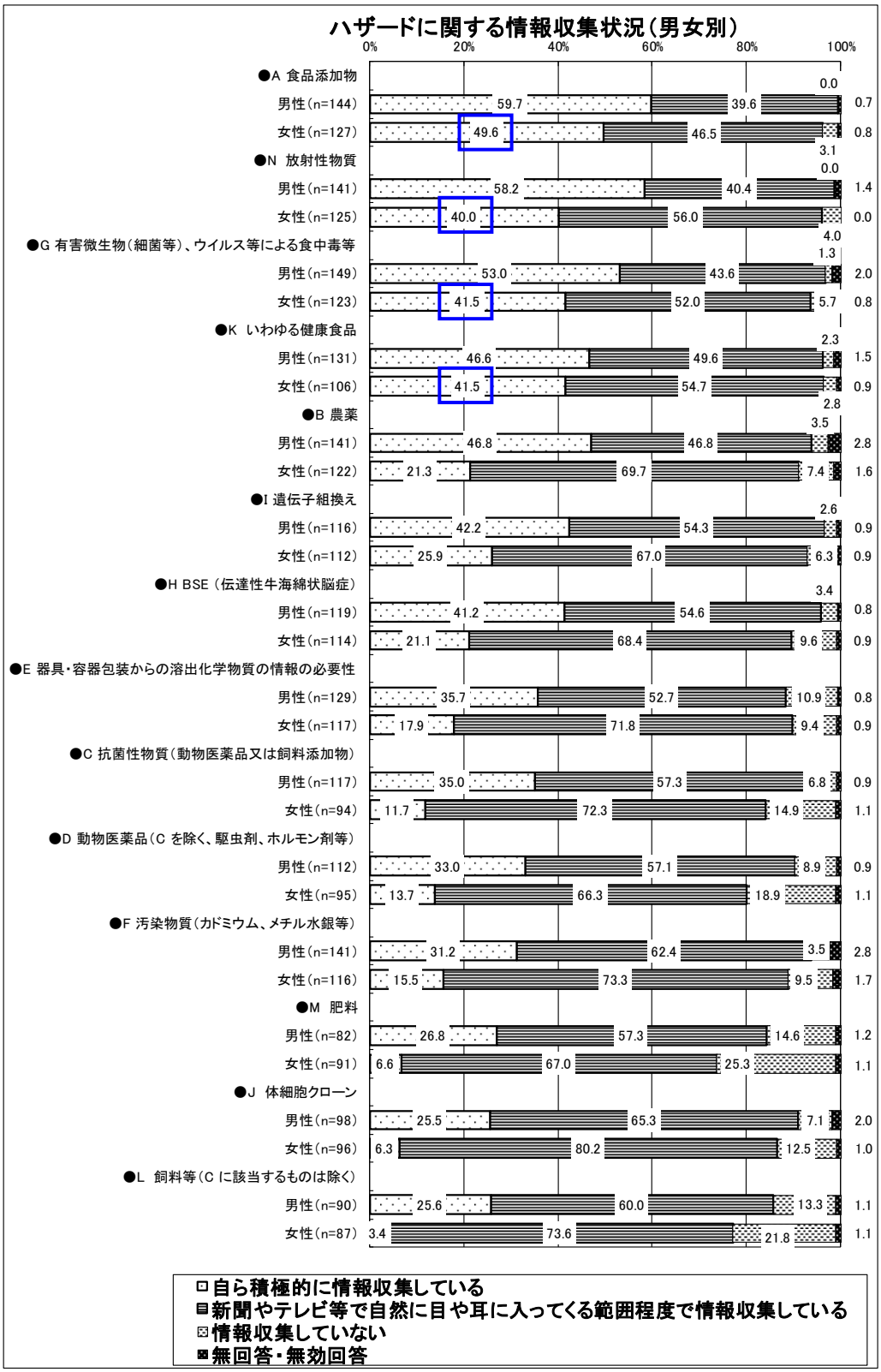
◆ 「新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる程度で情報収集している」との回答の割合が高いものの上位 3 事項（ハザード）は、「体細胞クローン」（72.7%）、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」（67.3%）、「飼料等（C に該当するものは除く）」（66.7%）である。

◆ 「情報収集していない」との回答の割合が高いものの上位 3 事項（ハザード）は、「肥料」（20.2%）、「飼料等（C に該当するものは除く）」（17.5%）、「動物用医薬品（C を除く、駆虫剤、ホルモン剤等）」（13.5%）である。



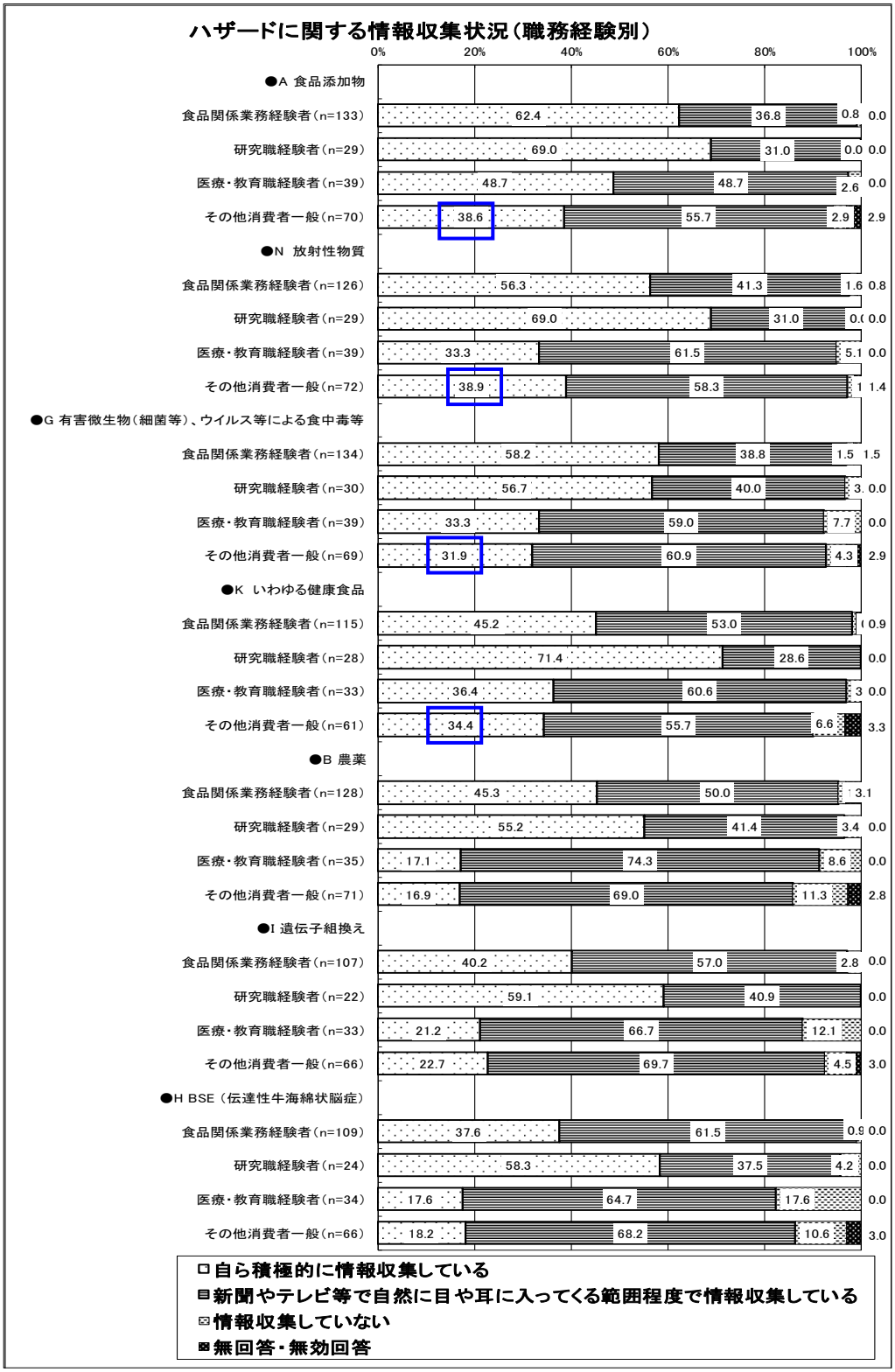
＜ハザードに関する情報収集状況についての男女別回答割合＞

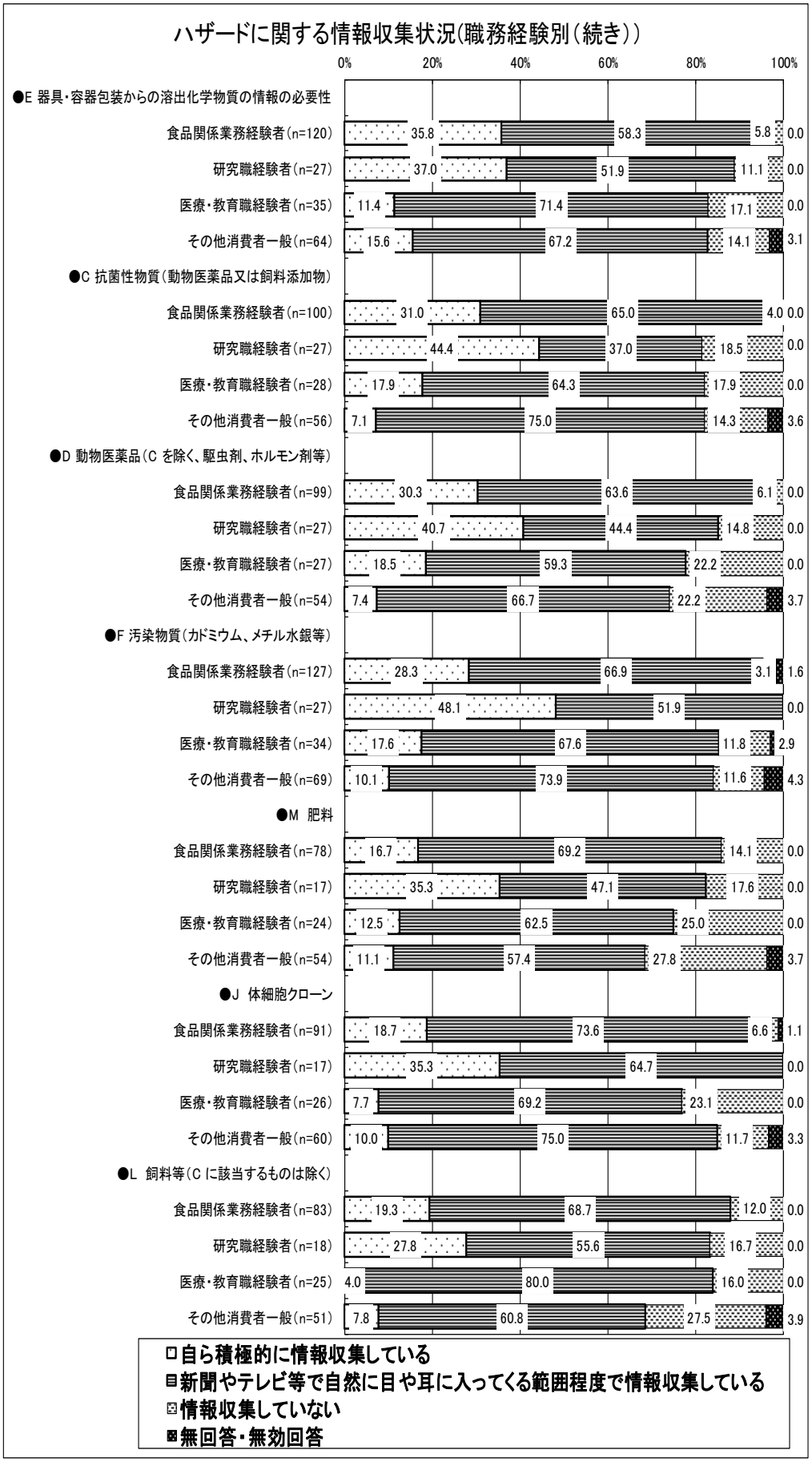
◆ 回答割合を男女別で比べると、男性で「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合は、すべてのハザードで女性に比べ高い。女性で「自ら積極的に情報収集している」との回答割合が 40%を超えたハザードは「食品添加物」(49.6%)、「有害微生物（細菌等)、ウイルス等による食中毒」、「いわゆる健康食品」（それぞれ 41.5%)、放射性物質(40.0%)であった。



＜ハザードに関する情報収集状況についての職務経験別回答割合＞

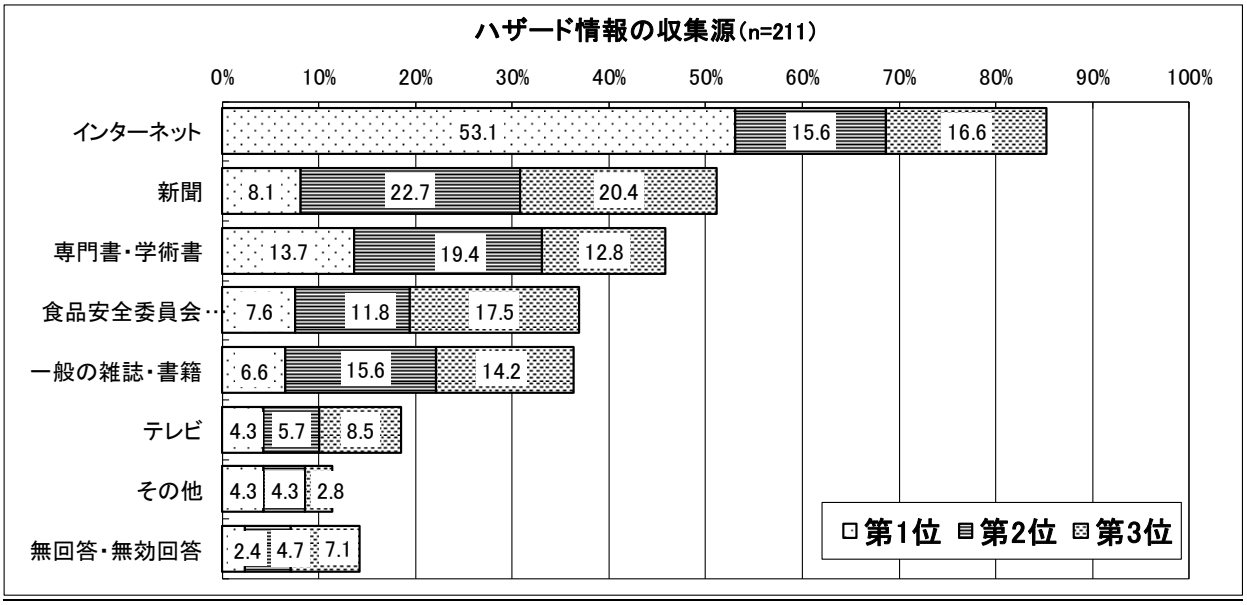
◆ 「自ら積極的に情報収集している」との回答の割合は、すべてのハザードで食品関係業務経験者及び研究職経験者が、医療・教育職経験者及びその他一般消費者に比べ高い。その他一般消費者において、「自ら積極的に情報収集している」との回答割合が 30%を超えるハザードは「放射性物質」(38.9%)、「食品添加物」(38.6%)、「いわゆる健康食品」(34.4%)、「有害微生物（細菌等)、ウイルス等による食中毒等」(31.9%) であった。




ハザードに関する情報収集状況(職務経験別(続き))
0%
20%
40%
60%
80%
100%
●E 器具・容器包装からの溶出化学物質の情報の必要性
食品関係業務経験者(n=120) 35.8 58.3 5.8 0.0
研究職経験者(n=27) 37.0 51.9 11.1 0.0
医療・教育職経験者(n=35) 11.4 71.4 17.1 0.0
その他消費者一般(n=64) 15.6 67.2 14.1 3.1
●C 抗菌性物質(動物医薬品又は飼料添加物)
食品関係業務経験者(n=100) 31.0 65.0 4.0 0.0
研究職経験者(n=27) 44.4 37.0 18.5 0.0
医療・教育職経験者(n=28) 17.9 64.3 17.9 0.0
その他消費者一般(n=56) 7.1 75.0 14.3 3.6
●D 動物医薬品(C を除く、駆虫剤、ホルモン剤等)
食品関係業務経験者(n=99) 30.3 63.6 6.1 0.0
研究職経験者(n=27) 40.7 44.4 14.8 0.0
医療・教育職経験者(n=27) 18.5 59.3 22.2 0.0
その他消費者一般(n=54) 7.4 66.7 22.2 3.7
●F 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)
食品関係業務経験者(n=127) 28.3 66.9 3.1 1.6
研究職経験者(n=27) 48.1 51.9 0.0
医療・教育職経験者(n=34) 17.6 67.6 11.8 2.9
その他消費者一般(n=69) 10.1 73.9 11.6 4.3
●M 肥料
食品関係業務経験者(n=78) 16.7 69.2 14.1 0.0
研究職経験者(n=17) 35.3 47.1 17.6 0.0
医療・教育職経験者(n=24) 12.5 62.5 25.0 0.0
その他消費者一般(n=54) 11.1 57.4 27.8 3.7
●J 体細胞クローン
食品関係業務経験者(n=91) 18.7 73.6 6.6 1.1
研究職経験者(n=17) 35.3 64.7 0.0
医療・教育職経験者(n=26) 7.7 69.2 23.1 0.0
その他消費者一般(n=60) 10.0 75.0 11.7 3.3
●L 飼料等(C に該当するものは除く)
食品関係業務経験者(n=83) 19.3 68.7 12.0 0.0
研究職経験者(n=18) 27.8 55.6 16.7 0.0
医療・教育職経験者(n=25) 4.0 80.0 16.0 0.0
その他消費者一般(n=51) 7.8 60.8 27.5 3.9
自ら積極的に情報収集している
新聞やテレビ等で自然に目や耳に入ってくる範囲程度で情報収集している
情報収集していない
無回答・無効回答

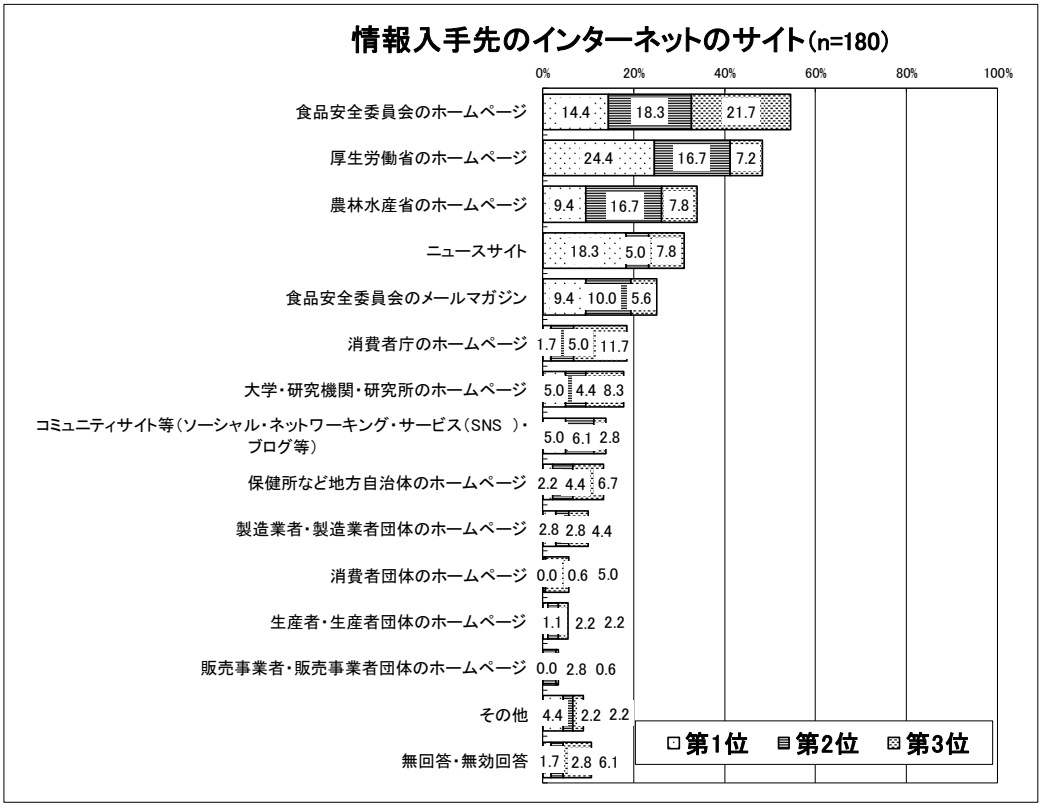
④ハザード情報の収集源（問 4）

◆ それぞれの項目について第 1 位との回答、第 2 位との回答及び第 3 位との回答を合計したところ、「インターネット」(85.3%)、「新聞」(51.2%)、「専門書・学術書」(45.9%) の順である。ただし、「第 1 位」の回答割合で見ると、「専門書・学術書」の回答割合は「新聞」よりも高い。



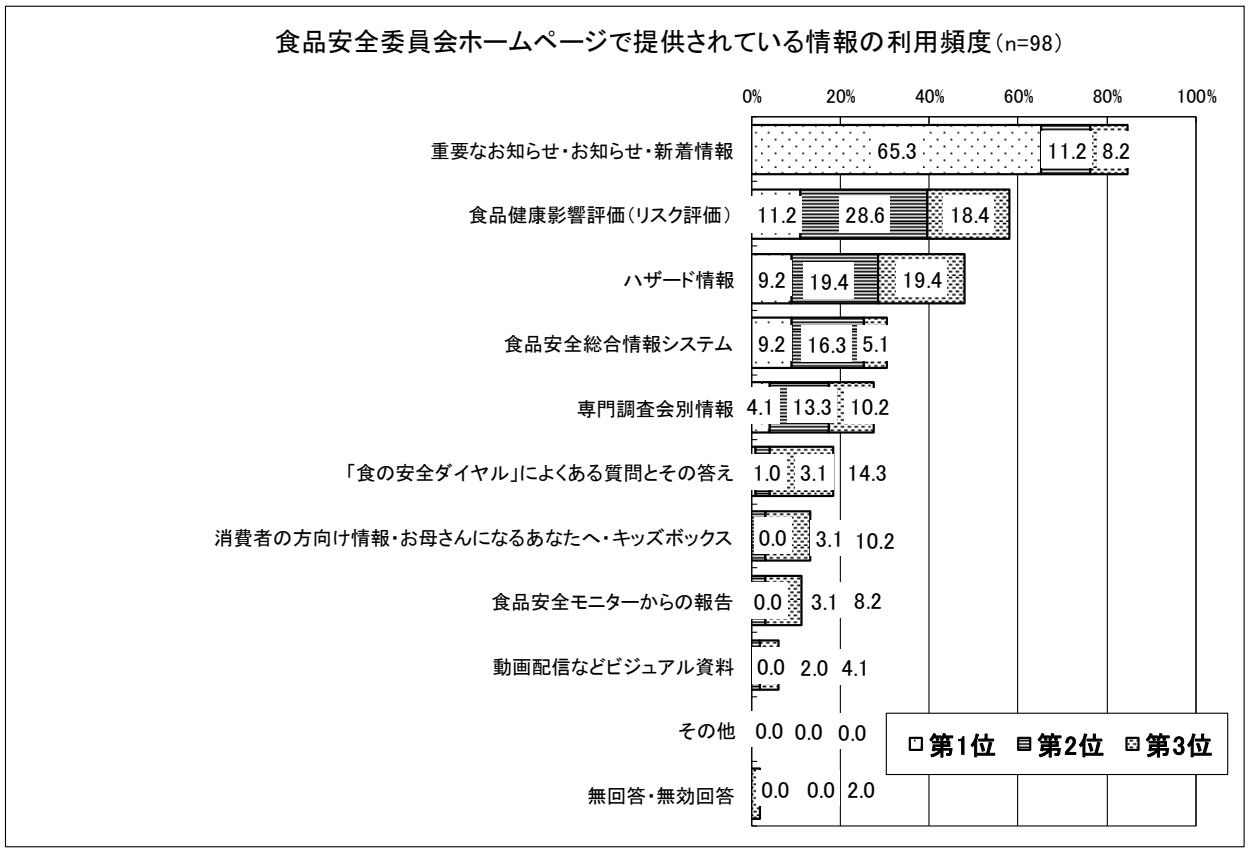
⑤情報入手先のインターネットのサイト（問 5）

◆ それぞれの項目について第 1 位との回答、第 2 位との回答及び第 3 位との回答を合計したところ、「食品安全委員会のホームページ」(54.4%)、「厚生労働省のホームページ」(48.3%)、「農林水産省のホームページ」(33.9%) の順である。ただし、「第 1 位」の回答割合で見ると、「厚生労働省のホームページ」との回答割合は「食品安全委員会のホームページ」よりも高い。



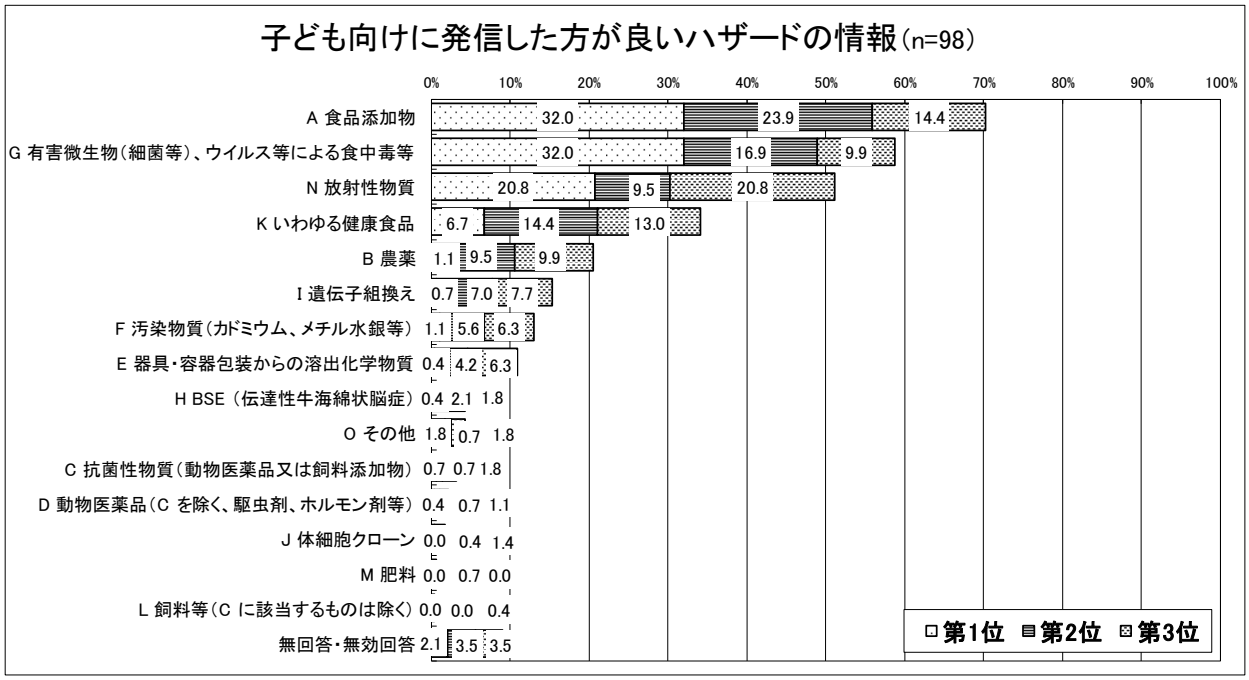
⑥食品安全委員会ホームページで提供されている情報の利用頻度（問 6）

◆ それぞれの項目について第 1 位との回答、第 2 位との回答及び第 3 位との回答を合計したところ、「重要なお知らせ・お知らせ・新着情報」(84.7%)、「食品健康影響評価（リスク評価）」(58.2%)、「ハザード情報」（48.0%）の順である。



⑦子ども向け（主に小中学生を対象とする）に発信した方が良いハザードの情報（問 7）

◆ それぞれの項目について、第 1 位との回答、第 2 位との回答及び第 3 位との回答を合計したところ、「食品添加物」（70.3%）、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」（58.8%）、「放射性物質」（51.1%）の順である。ただし「第 1 位」の回答割合で見ると、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」の回答割合は「食品添加物」と同じである。



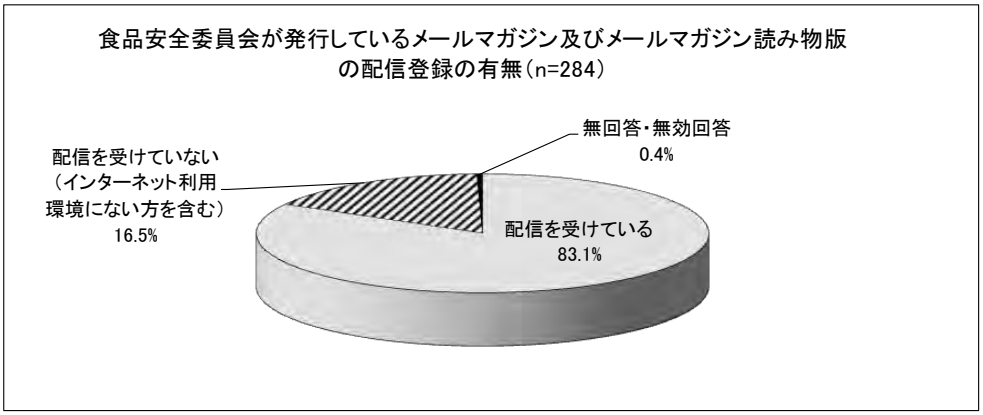
２）食品安全委員会発行のメールマガジンについて

①食品安全委員会が発行しているメールマガジン及びメールマガジン読み物版の配信登録の有無（問 8）

◆ 食品安全委員会が発行しているメールマガジンについて、「配信を受けている」との回答割合は83.1%となっている。

（参考）メールマガジンの種類

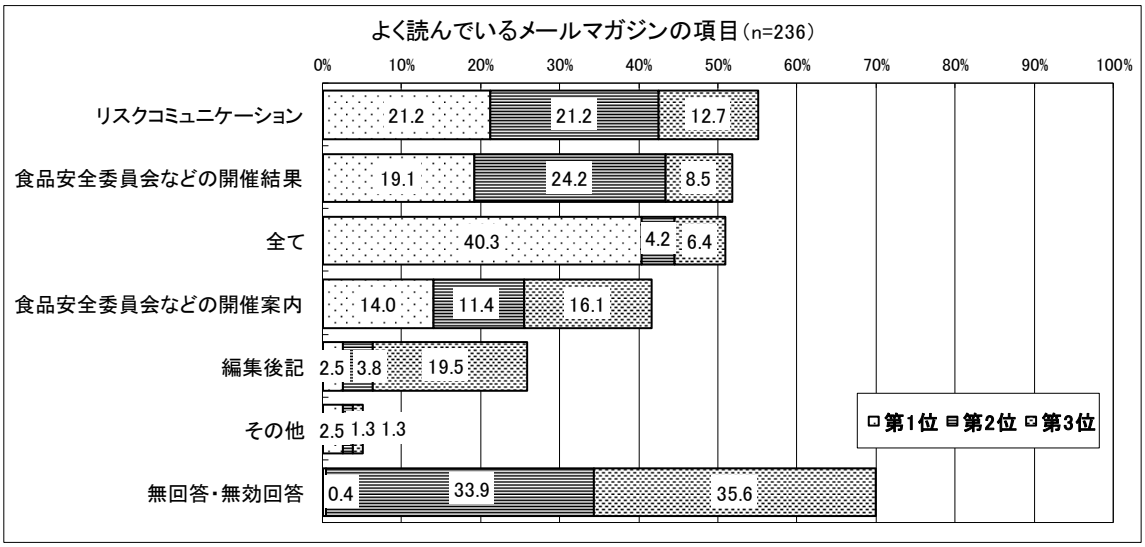
	主な内容	配信日
メールマガジン（ウィークリー版）	・委員会の開催結果や開催案内 ・リスクコミュニケーション（意見交換会などの開催案内）	毎週火曜日（原則として）
メールマガジン読物版	・実生活に役立つ情報　・安全性の解説 ・Q&A　・委員の随想	月の中旬と下旬



②よく読んでいるメールマガジンの項目（問 9）

◆ よく読んでいるメールマガジンの項目について、第１位との回答、第２位との回答及び第３位との回答を合計したところ、「リスクコミュニケーション」（55.1%）、「食品安全委員会などの開催結果」（51.8%）、「全て」（50.9%）の順である。ただし「第１位」の回答割合で見ると、「全て」の回答割合が最も高い。

（第１位で「全て」と回答した者について第２位・第３位の回答が空欄となること等から、第２位以下の「無回答・無効回答」の割合が高くなっている。）

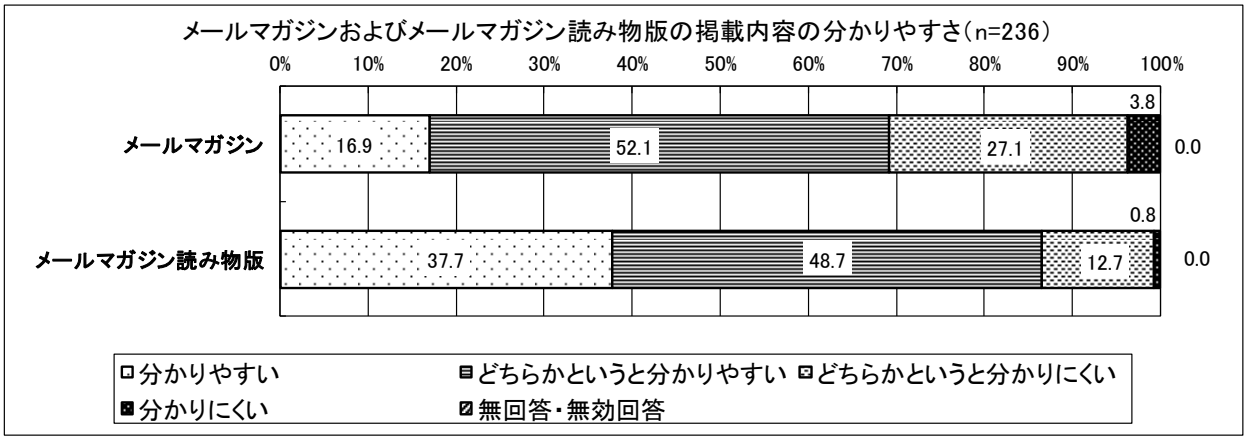


③メールマガジンの掲載内容の分かりやすさ（問 10）

◆ 「どちらかというと分かりやすい」との回答割合は 52.1%と最も高く、「どちらかというと分かりにくい」27.1%、「分かりやすい」16.9%、「分かりにくい」3.8%と続く。また、「分かりやすい」「どちらかというと分かりやすい」との回答割合の合計は 69.0%、「どちらかというと分かりにくい」「分かりにくい」との回答割合の合計は 30.9%である。

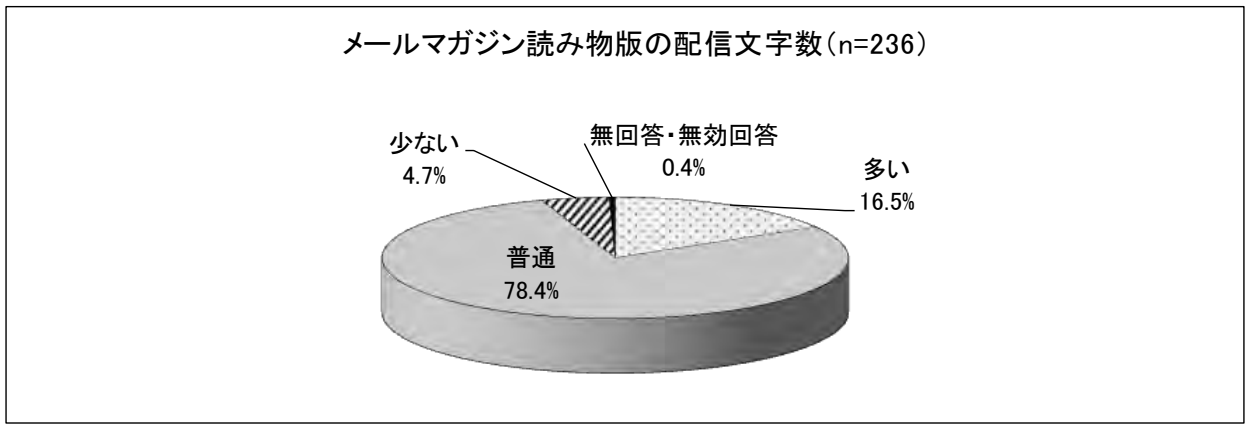
④メールマガジン読み物版の掲載内容の分かりやすさ（問 11）

◆ 「どちらかというと分かりやすい」との回答割合は 48.7%と最も高く、「分かりやすい」37.7%、「どちらかというと分かりにくい」12.7%、「分かりにくい」0.8%と続く。また、「分かりやすい」「どちらかというと分かりやすい」との回答割合の合計は 86.4%、「どちらかというと分かりにくい」「分かりにくい」との回答割合の合計は 13.5%である。



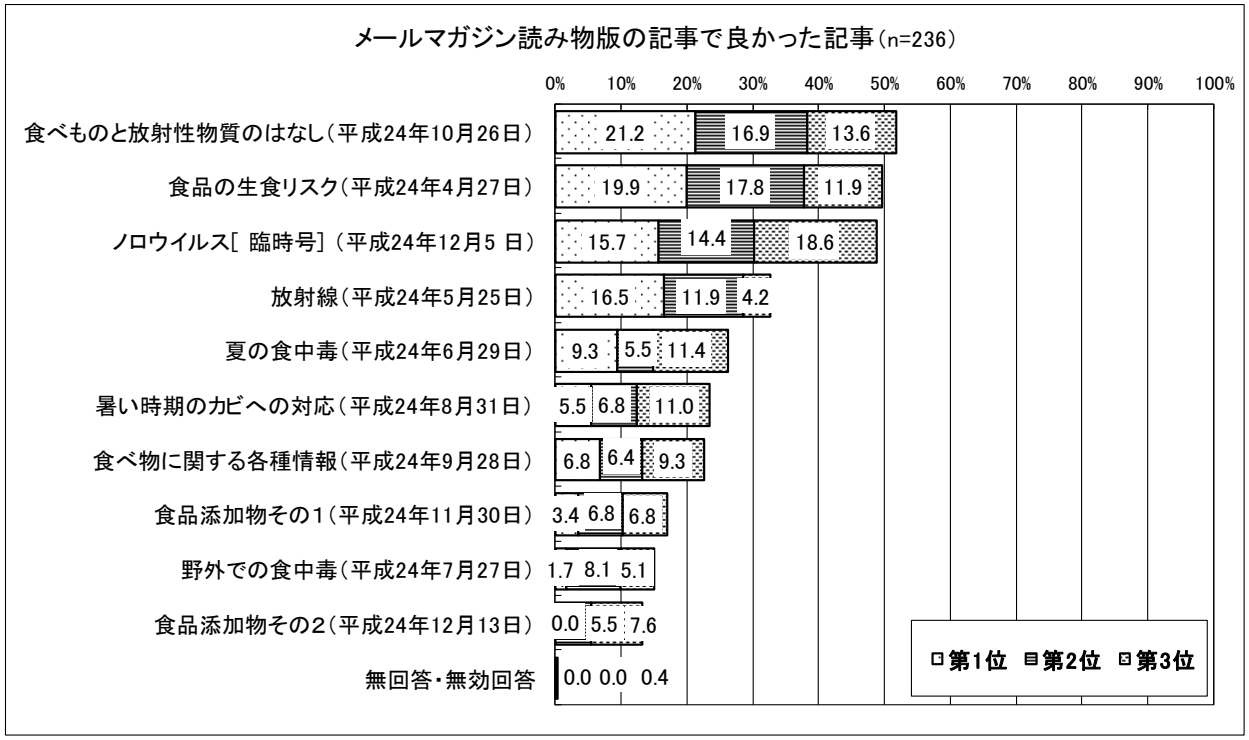
⑤メールマガジン読み物版の配信文字数（問 12）

◆ 「普通」との回答割合は 78.4%と最も高く、「多い」16.5%、「少ない」4.7%と続く。



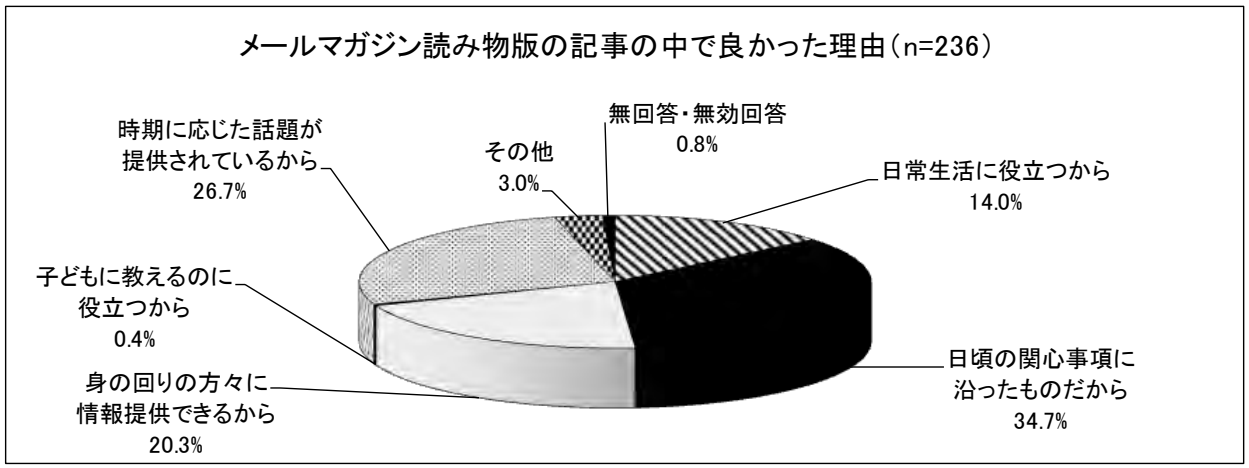
⑥メールマガジン読み物版の記事で良かった記事（問 13）

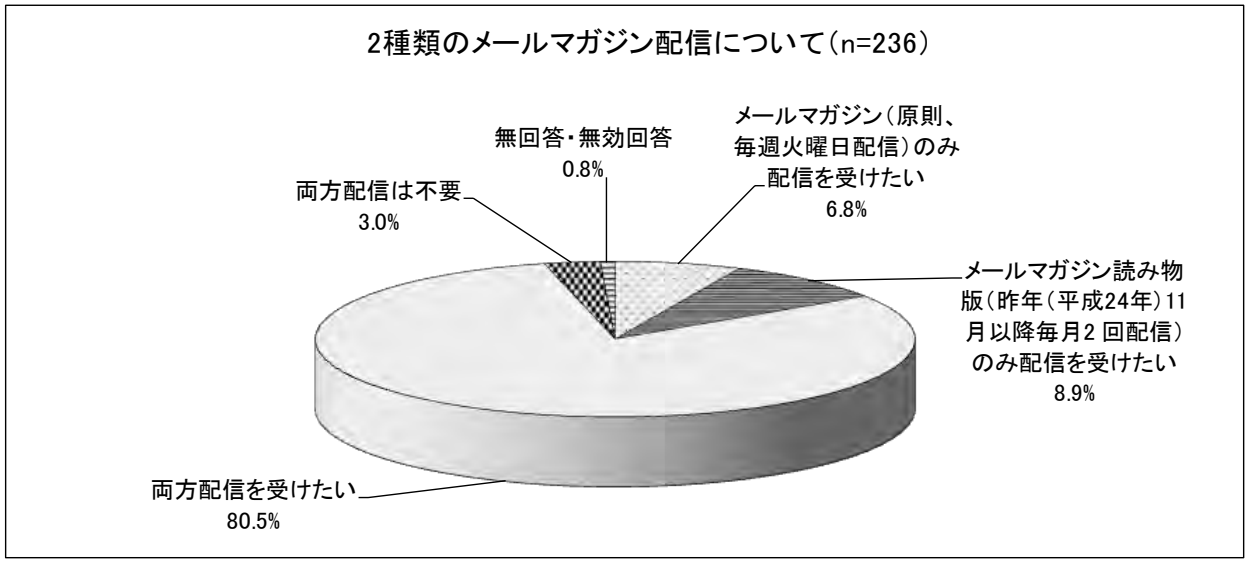
◆ それぞれの記事について第 1 位との回答、第 2 位との回答及び第 3 位との回答を合計したところ、「食べものと放射性物質のはなし（平成 24 年 10 月）」（51.7%）、「食品の生食リスク（平成 24 年 4 月）」（49.6%）、「ノロウイルス[臨時号]（平成 24 年 12 月 5 日）」（48.7%）の順である。



⑦メールマガジン読み物版の記事の中で良かった理由（問 14）

◆ 「日頃の関心事項に沿ったものだから」との回答割合は 34.7%と最も高く、「時期に応じた話題が提供されているから」26.7%、「身の回りの方々に情報提供できるから」20.3%、「日常生活に役立つから」14.0%、「その他」3.0%、「子どもに教えるのに役立つから」0.4%と続く。



⑧2 種類のメールマガジン配信について（問 15）

◆ 「両方配信を受けたい」との回答割合は 80.5%と最も高く、「メールマガジン読み物版（昨年（平成 24 年）11 月以降毎月 2 回配信）のみ配信を受けたい」8.9%、「メールマガジン（原則、毎週火曜日配信）のみ配信を受けたい」6.8%、「両方配信は不要」3.0%と続く。